

製品名: c-Fms (リン酸化 Tyr561) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04440**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	130-170kDa

抗原情報

遺伝子名	CSF1R
別名	CSF1R; FMS; Macrophage colony-stimulating factor 1 receptor; CSF-1 receptor; CSF-1-R; CSF-1R; M-CSF-R; Proto-oncogene c-Fms; CD antigen CD115
遺伝子 ID	1436.0
SwissProt ID	P07333
免疫原	抗血清は、ヒト CSFR の Tyr561 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 531-580

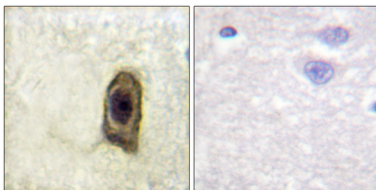
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、マクロファージの産生、分化、および機能を制御するサイトカインであるコロニー刺激因子1の受容体です。この受容体は、このサイトカインの生物学的効果のほとんど、あるいはすべてを媒介します。リガンド結合は、オリゴマー化およびトランスリン酸化のプロセスを介して受容体キナーゼを活性化します。コードされるタンパク質はチロシンキナーゼ膜貫通受容体であり、チロシンタンパク質キナーゼのCSF1/PDGF受容体ファミリーのメンバーです。この遺伝子の変異は、骨髄悪性腫瘍の素因と関連付けられています。この遺伝子の最初のイントロンには、転写不活性なリボソームタンパク質L7によって逆方向に処理された偽遺伝子が含まれています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。 [RefSeq提供、2013年12月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。機能: CSF1およびIL34のタンパク質チロシンキナーゼ膜貫通受容体。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。CSF-1/PDGF受容体サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性: 5つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含みます。サブユニット: INPPL1/SHIP2およびTHOC5と相互作用します。組織特異性: 骨髄および分化した血液単核細胞で発現します。 ,

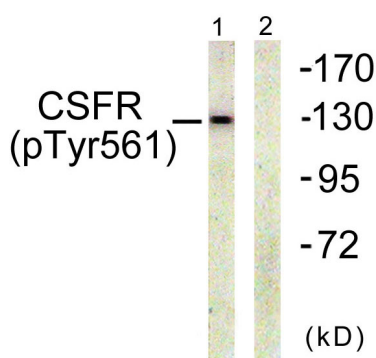
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;エンドサイトーシス;造血細胞系譜;癌における経路;

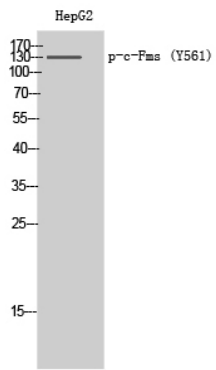
画像データ



CSFR (リン酸化 Tyr561) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



CSFR (リン酸化 Tyr561) 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



Phospho-c-Fms (Y561) ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析